

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月10日(金)

《私は神様に愛されている》

皆様よくご存じの福音(ヨハネ 21・15-19)の箇所です。イエス様がシモン・ペトロに「あなたは私を愛しているのか」と質問されたところです。そして三度同じ質問をされて、ペトロは悲しくなると表現されていることを私達はよく覚えています。この三度目、同じ質問をイエス様がペトロになされた時、皆様が思い浮かべることは何でしょうか。「三度もなぜ同じことを聞くのか」と思いながら思い浮かぶ聖書の箇所はないのでしょうか。そうですね、イエス様を三度知らないと拒んだことでしょうか。大体の人がそのように思うようです。ですからイエス様は、「私を愛していると告白を三度もしたけれども、後で三回私を裏切るよ」と、予告した言い方をなさったと思うのが殆どの人の考え方でしょう。

いいえ、それは大間違いです。イエス様はそんなに心の狭い方ではありません。三回裏切られた時にも、それにがっかりなさったりはしません。他の誰よりもペトロの弱さ、足りなさをご存知でした。ですから私の予想が当たったと思う気持ちで、少し悲しい目でペトロをご覧になったと思います。

それではなぜ三度も同じ質問をなさったのでしょうか。その答えが質問の後にすぐ出ます。『わたしこひつじの小羊を飼いなさい』と。そして、今日の福音の最後のほうに『他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。』と、ペトロの死に方について説明されたと書いてあります。ここには答えがあります。イエス様は弱虫で臆病な使徒ペトロに、天国の鍵をあずけ初代の教皇様の地位を与えました。ある意味では、卑怯な人間性を持っていると言ってもいいペトロに、なぜその鍵をあずけたのでしょうか。

弱さは全ての人間の抱えている特徴です。それをあれこれ責めるわけではありません。イエス様が願ったのは、あなたが本当にこの難しい立場で人々を世話しようとすれば、何よりも必要なことがある。それは私を愛さなければ可能ではない。結局信仰の根本的なことは、どんな善いことも、どんな意向を持って、どんな目的を目指していても、根本的に神様に対しての、イエス様に対しての徹底的な愛、信仰がなかったら絶対出来ないことをイエス様が教えようとなされたことです。ペトロはその後イエス様への愛が深められ、行きたくないところへ帯をしめられて連れて行かれても、「私はイエス様の後について行きます」と勇気を出すことが出来たわけです。

皆様よく考えてみてください。私達が本当に相応しい信仰の生活、御旨に叶う信仰の生活しようとすれば、基本的なこと、それは“神様に対する信頼と愛です。”信頼と愛が生じるためには何が必要でしょうか。何が一番大きな問題ですか。それは、“私は神様に愛されている”という確信です。これがなかったら神様が見えないでしょう。触られないでしょう。人間は一目で心を奪われる場合があります。しかし神様は目には見えません。声もやり方も何も見えなく香りもしません。そのような方を愛する方法は他にはありません。人間的な感覚では絶対出来ません。その神様を愛するためには、自分

がどの位愛されているかという体験だと私は思います。

皆様、イエス様が三度目「あなたはわたしを愛しているのか」と質問なさったのは、“あなたがわたしを愛さなくてはこれからの道を歩むことが出来ない、心に刻みなさい、”という深いメッセージであることをもう一度私達も考えてみましょう。

やはり「神様を愛しています」という告白のためには、“私は弱虫として臆病な者として、たまには卑怯なことも見せながらも、あなたが許して抱きしめて下さる経験を持っています。認めます。”という告白が必要ではないかと思います。

ありがとうございます。